

2009年11月4日

(これは、ロンドンにて10月29日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、10月29日付で、2009年度第3四半期における中間経営ステートメントを発表いたしました。

当行グループは、本年度上半期に営業収益・税引き前利益共に最高益を更新し、それを受けて第3四半期も好調な業績を更新いたしました。また、広範かつ多岐にわたる拠点網全域で成長機会を捉えるとともに、資本と流動性に主眼を置いた慎重な営業戦略展開によって、これまでどおり市場での優位性を誇っています。

アジア経済は明らかに底堅い回復基調が続いており、その成長率は西側経済を大きく上回っています。この堅調な景気回復力は同時にアジア市場における国際銀行や地域銀行による競争激化の要因となっています。

ホールセールバンキング部門

同部門の業績は、引き続き、広範な事業分野において底堅い収益の計上となりました。第3四半期における顧客からの収益は、概ね今年上半期と同等レベルで推移し、同部門全体の収益の約3/4を占めています。特に、第3四半期に最高益を更新したトレードファイナンスに牽引されたトランザクションバンキング事業部の業績は、トレード、キャッシュマネジメント両事業が堅調に推移しています。ただし、トレード事業での底堅い利益計上が見られた一方、キャッシュマネジメント事業の利益率は引き続き減少しています。一方、コーポレートファイナンス事業については、新規の大型案件に支えられ、好調な業績を計上いたしました。

第3四半期には、当行が事業展開する市場が魅力的な投資対象として、国際銀行、地域銀行による競争を高めました。また、市場ボラティリティが下落し通常レベルに近づくとともに、スプレッドも縮小したことで、自己取引による収益は例外的ともいえる上半期よりは低いものの、前年比では格段に高い水準で推移しています。FX取引・ALM(資産負債管理)事業の減収は、一部プリンシパルファイナンス事業の売却によってカバーされました。

同部門では引き続き厳格なコスト管理を徹底しています。予定された設備投資を消化しつつ、第3四半期の出費率は上半期と同水準のものとなっています。

同部門の資産ポートフォリオのクレジットクオリティ(信用の質)は良好に推移しており、景況を判断する「早期警告」指標は、ピーク値を記録した2009年3月以来、改善傾向にあります。また、景気に先行き不透明感が残る中、スタンダードチャータードは引き続き景気動向に留意していますが、第3四半期におけるクレジットコストは予想通りの低いものでした。上半期に見られたデフォルト確率の上昇も、マクロ経済環境に改善が見られたことから大幅に緩和されています。また、第3四半期、リスク加重資産(RWA)の増加に歯止めがかかりました。

コンシューマーバンキング部門

同部門における収益は、昨年第4四半期以来上昇基調にあることから、第3四半期も引き続き堅調に推移しています。

住宅ローン事業については、特に、全般的に利益改善が見られる地域市場である香港・韓国・シンガポール・インドにおいて底堅い業績を上げています。しかしながら、貸付による利益は、昨今の低金利を反映して収益幅が低下し、住宅ローン収益の増加分を相殺しています。一方、ウェルスマネジメント事業では、第3四半期の手数料収入が、第2四半期を上回る2桁成長となり、引き続き回復の兆しを見せています。また、融資、トレード、運転資金関連商品の好調な業績に支えられ、同四半期における中小企業向け(SME)融資事業の収益増加に結びつきました。

同部門では、引き続き厳格なコスト管理を実施するとともに選択的投資を行い、特に、顧客リレーションシップマネジャー(RM)強化を図ることで、顧客中心主義の事業戦略をサポートしています。アジア通貨高が進む中、同四半期の費用総額は、ヘッドラインベースで今年上半期とほぼ同レベルで推移しました。

同部門における各事業部のクレジットクオリティは引き続き改善の傾向にあります。第3四半期の融資減損分も中間期決済時点の予想値である3億米ドルより数千万米ドル改善し、当行予想であった融資環境の安定化を再確認するかたちとなりました。

グループ関連

スタンダードチャータードは、慎重なバランスシート管理態勢のもと、投資先の地域国市場、資産タイプ、業種を十二分に分散化し、引き続き高い流動性と潤沢な資本を有しています。自己資本率(コアTIER1)、総資本率は高水準にあり、事業面でも、今年上半期と概ね同比率となる自己資本を保つレベルの収益を上げています。

また、当行グループの流動性ポジションは大変良好な水準にあり、第3四半期を通して顧客預金残高(特に当座・普通預金)が順調に増加しました。今後もホールセールバンキング事業においても大口預金を引き続き獲得しています。

また今後数年の間に満期予定の貸出案件に対するリファイナンスについては極めて限られたものとなっています。

主要事業・顧客セグメントを選択の上、それに注力してきたことで、資産投資の伸び率は総じて穏やかなものとなっています。

今年8月の上半期業績報告の際、当行グループの本年度の実効税率は、総じて前年より高く、通常の実効税率である28~29%を上回るだろうと発表しました。これは、この1年半にわたり、過去1990年度~2007年度を対象とする課税額算出に関して英国税関・税務局への協力態勢をとってきたことに関連しています。最終的な算出額に基づき、最終的には上記実行税率28~29%幅の課税のほか、今回限りとなる合計2億米ドルの追加課税額の支払いを予定しています。

スタンダードチャータードは、主要市場であるインドでのブランド力向上とビジネス拡大を視野に、インド預託証券発行による株式上場を前向きに考慮しており、現在上場次時期をインド当局と協議中です。中国での上場の可能性も探りつつあります。

グループ最高経営責任者であるピーター・サンズは、今回の第3四半期業績発表に当たり、次のように述べています。

「経済指標データや市場を取り巻く環境が改善に向かってはいるものの、持続的な回復基調にあるというにはまだ早く、今後の見通しに関して当行は慎重な姿勢をとっています。しかしながら、当行の主力市場で

あるアジア、アフリカ、中東地域は一部の西側諸国のそれと比べ、より迅速かつ堅調な回復を見せています。このような市況下において、当行グループは、健全なバランスシートをてことして市場でも優位なポジションを有しており、顧客の皆様へのより良いサービス提供とともに、複数の市場において引き続き良好な成長モメンタムを示しています」

本年度業務予想につきましては、12月初旬の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へお問い合わせ下さい。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44(0)20 7885 7245

Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958

John Tracey, Head of Media Relations +44(0)20 7885 7163

日本語での問い合わせは、以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行 コーポレートアフェアーズ部 部長

クリストファー・ドミター

Tel: 03-5511-1361 / Fax: 03-5511-9333

Christopher.Domitter@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。